

令和元年度 公益財団法人納税協会連合会会長賞

当たり前の有難さ

宇陀市立榛原中学校 三年 松下 陽花

「怖い、あんまり端に近寄ったら危ないで。」

祖父母の家に帰る途中の道が平成二十九年台風二十一号の災害の影響で二ヶ所、三ヶ所と土砂で崩れています。元々細かった帰り道がさらに狭くなり、車一台が通るのが精いっぱいになっていました。いつも当たり前のように通っている道が一晩でこんなことになるのかと、自然の力に恐怖を覚えました。

当たり前、私からしたら自分の家に帰れる道があるのが当たり前、祖父母の家へ帰れる道があるのが当たり前、になっています。今回は台風の被害によって道路が土砂で崩れましたが、地震や火災などでいつでも当たり前が一瞬で崩壊する可能性があります。

私はこの作文をきっかけに、災害があった場合の復旧についてのしくみをインターネット等で調べてみました。災害復旧には河川や道路、公園などを迅速・確実に復旧するとされています。それには地元の市役所だけでなく国の補助を受け復旧されるそうです。この復旧のための費用は税金で賄われています。税金には国の税金である「国税」や県や市町村に納める「地方税」があり、所得に応じて納める税金や、固定資産の所有に応じて納める税金、私たちが買い物などで支払う消費税などがあることが分かりました。このさまざまな税金は今回のような災害の復興、学校やごみ処理や医療福祉などたくさんの公共サービスに使われているのです。

私はそれを知って、

「税は無くってはならない大切な国の一部なんだな。」

と思いました。

令和元年の今年の夏休みには祖父母の家に災害以前と同じように車で安全に帰ることが出来ています。復旧まで時間はかかりましたが、たくさんあった崖崩れは綺麗に復旧してくれています。安心して皆が生活できる。そんな社会になっていくといいなと思いました。そしてその安心の基となるのが税金です。もし自然災害の復旧が出来なければ、大好きな家族に会うことも買い物に行くことも出来ません。そんなことにならない為に、一人一人の小さな納税が皆を幸せにしてくれています。

私はこの災害復旧をしてくれた経験から、税金について感謝し、自分が働くことになればきちんと納税し、皆が当たり前の生活が送れるように努力します。そしていろんな事に挑戦して、国民の義務を果たせられるように納税をしたいと思います。